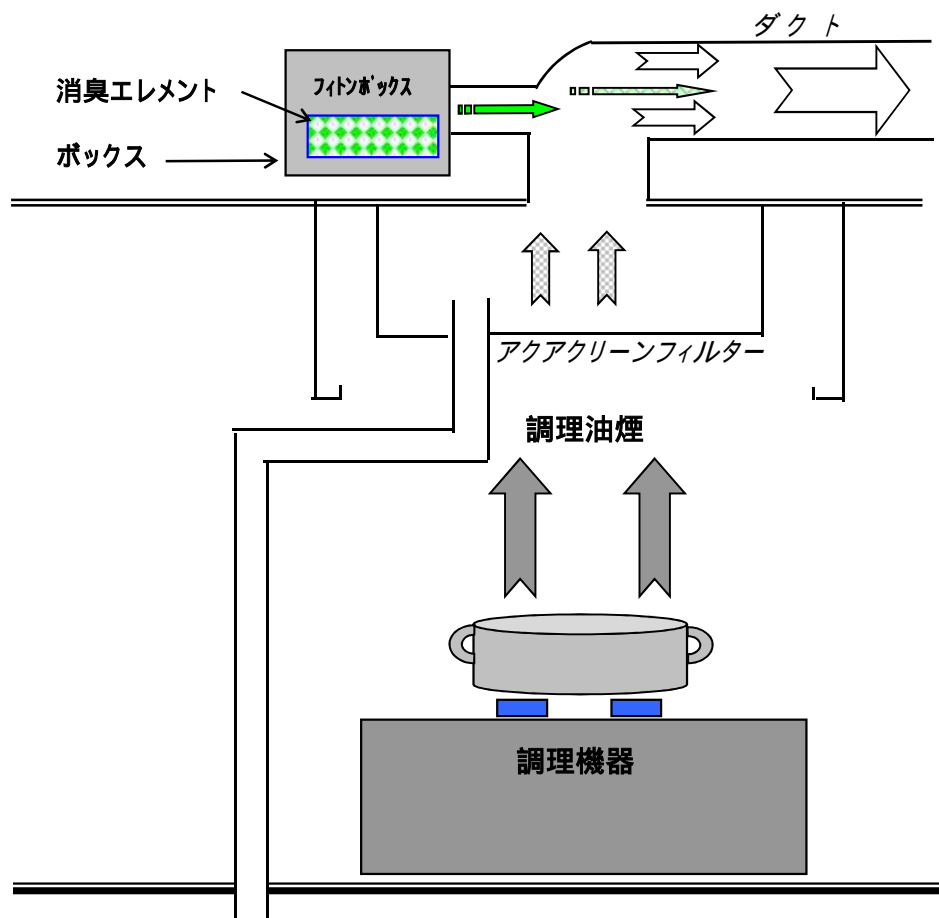


消臭大臣コンポーネント



【機能】

アクアクリーンシステムの消臭効果にフイトンチット効果を加えました。特に油臭は臭気濃度が高くなくとも不快に感じる臭いで、調理臭の中でも特にクレームが出やすい臭いです。この臭いにフイトンチットを混合させ臭いの性質を変えるものです。

【システムの仕組】

アクアフィルターで一時処理をした排気にフイトンチットを混合させます。ダクト内に流入したフイトンチットが排気と反応し外部に排気されます。

フイトンチットのエレメントは2～3ヶ月ほどで効果が無くなりますので新しいエレメントと交換が必要となります。

植物の空気浄化作用

森の中には樹木の葉や幹から発散されるフィトンチッドと呼ばれる粒子が漂っています。このフィトンチッドには、樹木にとって有害なカビや細菌の繁殖を抑えたり、空気を浄化して消臭する効果があります。このため、森の中では動物の死骸が強い悪臭を発生したり、腐乱したりすることはありません。私たち人間は、古くからこのフィトンチッドの効果を知り、様々な形で有効に利用してきました。スギの葉やヒバの葉などが料理に多く使われてきたのには、目や香りを葉などが料理に多く使われてきたのには、目や香りを楽しませるだけでなく料理を長持ちさせ、嫌な臭いを消す為なのです。また、フィトンチッドの香りには脳波を刺激し、ストレスを解消する森林浴効果もあるのです。

においの物質と気体分子

においの物質は50万種類以上もあるといわれています。においの物質は非常に小さく、分子量でみるとこのようになります。

名称	化学式	分子量
アンモニア	NH ₃	17
硫化水素	H ₂ S	34
メチルメルカプタン	CH ₃ SH	48

においを感じるということは、においの物質が鼻に入り鼻の中の粘膜に触れる感を指します。ですので、においの物質は鼻に入る時は、空気中の気体分子として漂っているのです。

気体分子運動

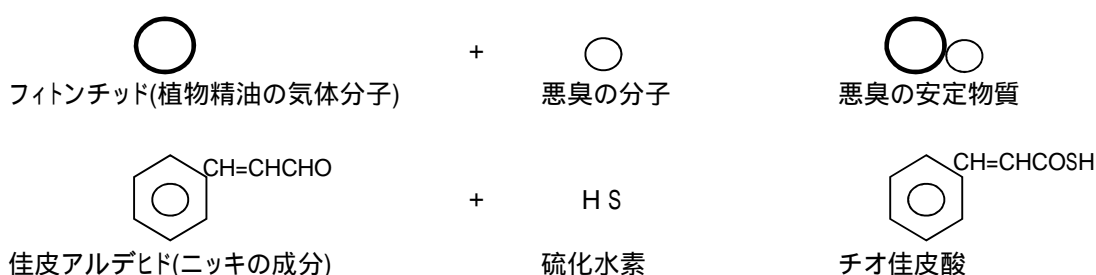
常温(15℃/1気圧)で液体が気体になると体積は約1,000倍になります。これは分子が大きくなったわけではなく、隙間が99.9%増加したことになります。分子はこの隙間だらけの空間を毎秒数100m～1000mものスピードで飛びまわっています。気体分子は1mm立方の空間に300億個くらい存在しています。また、分子は1mm進む間に約20,000回の衝突をしています。ですから分子は、高速でぶつかり合いながら、ジグザグ運動(ブラウン運動)をしていることになります。

閾値

鼻は、空気中に漂っているにおい分子が一定の濃度に達しないとにおいを感知できません。鼻がにおいを感知する濃度を「閾値」といいます。人によってこの閾値は違い、またにおいの物質によっても違います。比較的薄い濃度で感知しはじめるメチルメルカプタン(都市ガスに使用されているにおい)で平均的な閾値は0.0001ppmです。また、硫化水素は0.0005ppm、アンモニアは0.1ppmです。分子の数量では、1mm立方の中にメチルメルカプタンは30個、硫化水素は150個、アンモニアでは30000個あるとにおいを感知できるということとなります。

消臭の構造

空気中に存在する悪臭物質とフィトンチッドが衝突した瞬間に次ぎのような化学反応が行なわれ、中和消臭されることとなります。



消臭粒子仕様

- 名称 : 産業用メンブレン
- 内容物 : ハッカ・ニッキ・ユーカリ・アメリカ杉・クスノキ等
約30種類の天然植物精油
- 粒子サイズ : 数10オングストローム
- 使用温度 : -7 ~ 400
- 使用湿度 : 上限95%

消臭剤仕様

- 型式 : メンブレン#52-1225
- 形状 : 125.0高×965.2長×7.0厚(単位m/m)
- 耐用時間 : 連続使用で1,000時間
- 使用温度 : 0 ~ 70

